

基本計画（施策評価シート）

基本構想	05	【生活基盤整備】
政 策	主	01 安心して快適に暮らせるまち
	副	—
施 策	01	コンパクトシティのまちづくりを進め、中心市街地の魅力を再生します
所 管	200500	建設部・都市計画課
関 連	150100	経済部・商工観光課
関 連	—	—
関 連	—	—
関 連	—	—
関 連	—	—

◆現状と課題

市庁舎・図書館等の公共施設、総合病院の整備が概ね平成29年度で完了するが、庁舎・病院等を利用する市民にとって飲食や買い物に利便性が高く、市を訪れる観光客等にとっては小諸駅を拠点に回遊できるような、魅力ある中心市街地となっていない。商業振興によるまち再生と、小諸駅、市庁舎周辺の都市的機能、重要文化財等歴史的資産がコンパクトにまとまる特徴を活かした、歩いて暮らせるまち、公共交通ネットワークで繋がるまちづくりを進める必要がある。

◆方 針

目 的	優先順位
多極ネットワーク型コンパクトシティの理念のもと、公共施設、総合病院、商業施設や金融機関など、生活に必要な多様な都市機能が有機的に連携しあう、利便性の高い魅力ある快適に暮らせるまちづくりや、公共交通ネットワークが確立されたまちづくりを進めるため、立地適正化計画を策定し、計画に基づく施策・事業の推進を図る。併せて、小諸駅を拠点とし、懐古園や旧北国街道の重要文化財や歴史的建造物を活かした、回遊できる市街地の形成により、観光振興と移住・定住促進に繋げる。	—

◆目 標

・目標の計画と達成状況

計 画
①策定された立地適正化計画に基づき、利便性の高いまちづくりが進んでいる状態。 ②空き店舗が活用されるなど、商業の活性化等により、多様な都市施設が有機的に機能している状態。 ③徒歩で中心市街地を回遊でき、歴史的資産を活用したまち歩きができる状態。 ④小諸駅を中心に、鉄道、バス等公共交通ネットワークが整備され、連結して機能している状態。
設定理由
①計画によるまちづくりの推進が、中心市街地の魅力の再生に繋がるから。 ②買物や食事、医療といった生活の利便性の高いまちづくりが、賑わいの再生や移住・定住促進に繋がるから。 ③回遊性の高いまちづくりにより、市民や観光客など、より多くの皆さんに来ていただける魅力が増すから。 ④まちの顔である小諸駅を拠点に、交通弱者や観光客の利便性がより高まるとともに、定住促進に繋がるから。

◆実績

平成29年度 実績					評価点	—
<ul style="list-style-type: none"> ○都市再生整備計画事業(第3期H25～H29)・大手門公園整備工事が完了(一部繰越)。 ○南庭エトランス広場整備工事が完了。 ○こもろ医療センターと駐車場施設の利用に関する協定を締結した。 ○集約駐車場(第1,第2)の利便性の向上のため、案内看板・誘導表示灯の工事を実施した。 ○大手門公園有料駐車場条例の制定をした。 ○複合型中心拠点誘導施設整備構想を発表した。 						

◆成果指標(アウトカム)

・目標値の計画と達成状況

指標名	相生町商店街の歩行者数						
設定理由	市庁舎、図書館、総合病院等と駅周辺の公園等を結ぶ相生町通りの徒歩による人の増加が、歩いて暮らせるまちづくりの成果と考えられるから						
算式						単位	人
目標値 (公表)	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	997	計画	1,052	1,107	1,162	1,218	
		実績	816	1,283			
指標名	本町通りの歩行者数						
設定理由	本町通りの徒歩による人の増加が、中心市街地の回遊や歴史的資産を活用したまち歩きの結果と考えられるから						
算式						単位	人
目標値 (公表)	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	506	計画	531	557	584	608	
		実績	558	635			
指標名							
設定理由							
算式						単位	
目標値	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
		計画					
		実績					

◆目標の実現に向けた今後の取り組み

<ul style="list-style-type: none"> ○都市再生整備計画事業(第4期H30～H32)の計画に基づき事業を推進する。 ○集約駐車場(第1,第2,第3)及び市営駐車場(小諸駅、大手門公園)利用者に、常時良好の状態に保つように引き続き維持管理を行う。 ○立地適正化計画に基づき、都市機能及び居住の誘導に向けた事業等の検討を行う。 ○複合型中心拠点誘導施設の整備に着手する。 						
---	--	--	--	--	--	--

◆個別計画

都市計画マスタープラン/立地適正化計画

◆特記事項

--

事務事業名	33 都市計画総務費運営費	施策内順位
		4/4
所管	200510 建設部・都市計画課・都市計画係	
事務事業名	386 都市計画総務費給与費	施策内順位
		—
所管	200530 建設部・都市計画課・まち整備係	
事務事業名	267 都市再生整備計画事業	施策内順位
		1/4
所管	200530 建設部・都市計画課・まち整備係	
事務事業名	321 県街路事業負担金	施策内順位
		—
所管	200530 建設部・都市計画課・まち整備係	
事務事業名	284 市営駐車場管理事業	施策内順位
		2/4
所管	200530 建設部・都市計画課・まち整備係	
事務事業名	7732 集約駐車場管理事業	施策内順位
		3/4
所管	200530 建設部・都市計画課・まち整備係	

基本計画（施策評価シート）

基本構想	05	【生活基盤整備】
政 策	主	01 安心して快適に暮らせるまち
	副	—
施 策	02	新しい地域公共交通ネットワークを構築します
所 管	200500	建設部・都市計画課
関 連	—	—
関 連	—	—
関 連	—	—
関 連	—	—
関 連	—	—

◆現状と課題

民間公共交通の廃止や縮小傾向の加速化で、通勤通学手段が無くなりつつあるとともに、超高齢化社会の進展等により交通弱者が増加している。また、小諸駅を中心に市を訪れる観光客の移動交通手段がないといった状況にある。通勤・通学や交通弱者の移動手段を確保・維持するとともに、市を訪れた観光客等も利用できるよう、中心市街地やそれぞれの地域が公共交通で有機的に繋がっている安心して快適に暮らせるまちづくりを進める必要がある。

◆方 針

目 的	優先順位
デマンド型予約制相乗りタクシー「こもろ愛のりくん」を基本に、様々な移動手段に対応した新しい地域公共交通ネットワークを構築する。また、持続可能な地域公共交通の仕組みづくりのために、利用者の要望等に沿った改善を図るとともに、運営組織や運営経費、受益者負担のあり方等を総合的に検討する。	—

◆目 標

・目標の計画と達成状況

計 画
①自家用車等の移動手段のない市民が、公共交通網を利用して移動したいときに移動できる状態。 ②観光客等が公共交通を利用して観光地等を巡ることができる状態。 ③利用者が満足するネットワークが構築され、かつ、公共サービスとして持続可能な運営となっている状態。
設定理由
①交通弱者の移動手段を確保する必要があるから。また、過度に自家用車に頼ることなく、通勤・通学、通院や買物等に出かけることができるから。 ②鉄道、バス等が連結した利便性の高い公共交通の提供が、移住・定住や交流人口の増加につながるから。 ③行政の財政負担や利用者（受益者）負担を含め適切な経費負担による運営が、持続可能な地域公共交通システムとなることから。

◆実績

平成29年度 実績					評価点	—
<ul style="list-style-type: none"> ・市コミュニティバスである予約制相乗りタクシー「こもろ愛のりくん」及び定時定路線バス「愛のりすみれ号」について、乗降場所の追加や路線の変更などの運行改善を実施した。 ・市コミュニティバスと幹線的な公共交通との交通結節点である小諸駅のバリアフリー化工事(全てのホームにエレベーターを設置)が完了した。 ・幹線的な公共交通であるしなの鉄道及び千曲バス「佐久上田線」について、ほかの沿線自治体とともに運営支援を実施した。 						

◆成果指標（アウトカム）

・目標値の計画と達成状況

指標名	コミュニティ交通利用者数（延べ人数）						
設定理由	利用者の増加が公共交通の利便性に対する評価と考えられるから						
算式						単位	人
目標値 (公表)	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	85,000	計画	86,000	87,000	88,000	89,000	
		実績	66,058	70,185			
指標名	こもろ愛のりくん・愛のりすみれ号の乗車率						
設定理由	運行効率が上がることで運営経費が抑制され、持続可能な運営に繋がるから						
算式						単位	%
目標値 (公表)	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	35	計画	36.5	38	39	40	
		実績	32.4	32.1			
指標名							
設定理由							
算式						単位	
目標値	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
		計画					
		実績					

◆目標の実現に向けた今後の取り組み

<ul style="list-style-type: none"> ・市コミュニティバスについて、利便性を高めるとともに安定した運営が行なえるよう、引き続き運行改善に努める。 ・幹線的な公共交通について、持続可能な運行をめざし、沿線自治体と協議を行い、支援事業等を検討する。 ・高齢化社会の進展および多極ネットワーク型コンパクトシティの推進に対応した、地域公共交通の将来像の検討を進める。 						
--	--	--	--	--	--	--

◆個別計画

地域公共交通網形成計画／都市計画マスタープラン／立地適正化計画

◆特記事項

--

事務事業名	254 交通政策費運営費	施策内順位
所管	200510 建設部・都市計画課・都市計画係	2/2
事務事業名	126 公共交通事業	施策内順位
所管	200510 建設部・都市計画課・都市計画係	1/2

基本計画（施策評価シート）

基本構想	05	【生活基盤整備】
政 策	主	01 安心して快適に暮らせるまち
	副	—
施 策	03	社会基盤の整備と長寿命化を進めます
所 管	200100	建設部・建設課
関 連	200500	建設部・都市計画課
関 連	—	—
関 連	—	—
関 連	—	—
関 連	—	—

◆現状と課題

道路・橋梁・河川は、必要な機能を維持するための修繕が中心となっており、生活道路の事業要望、幹線道路の舗装改良、橋梁の修繕・耐震補強、河川の護岸保全などは、計画的な整備ができていない状況である。国土地籍調査は、計画区域を予定どおり完了するため、継続で実施している複数の地区を同時に進める必要がある。空家対策は、実態把握調査と2次調査の結果を踏まえた「特定空家等」の指定に伴い、所有者による除却等の促進を図ることが課題である。

◆方 針

目 的	優先順位
市内の社会資本については、必要な機能を維持しつつ、定期的に点検を行い、将来の維持・更新費用を抑制するため、長寿命化・老朽化対策を推進する。生活道路等の修繕は、将来の効率的な改修の検討をする。なお、新設道路は、道を活かす計画的な道路整備を行い、通行量・利用者等の少ない橋は、廃止・削減の方法を考える。国土地籍調査は、実施地区の作業を効率的に進め、登記完了へつなげる。空家対策は、実態把握調査と二次調査の結果に基づき、特定空家等の指定を行い、除却等の適正な管理を促す。また、空家対策協議会の運営を行う。	—

◆目 標

・目標の計画と達成状況

計 画
①通行の安全性が確保された状態。 ②橋梁が計画的に維持管理されている状態。 ③空家が適正に管理されている状態。
設定理由
①生活道路、通学路が整備されることにより、通行の安全が確保されるから。 ②橋梁点検を計画的に行うことにより、損傷の事前予測や劣化予測ができるから。 ③空家が適正に管理されることにより、空家の利活用とともに、危険が回避されるから。

◆実績

平成29年度 実績		評価点	—
<ul style="list-style-type: none"> 生活道路の地域要望への対応は、24%・42箇所を実施した。 通学路緊急合同点検による交通安全通学路整備は、52%・12箇所を実施した。 橋梁は、1橋の耐震化及び修繕を実施し、1橋の修繕に伴う詳細設計を実施した。橋梁点検は、44橋実施した。 空家対策は、協議会・連絡会の開催、空家所有者を対象に無料相談会を開催した。また、小諸市空家等対策計画を策定した。 <ul style="list-style-type: none"> 地域協働道ぶしんクリーン事業は、地域の方々の活動により259件の実施となった。 国土地籍調査事業は、5地区を同時に進め、2地区の登記が完了した。 			

◆成果指標（アウトカム）

・目標値の計画と達成状況

指標名	道路改良・改修要望への対応割合						
設定理由	対応割合を維持することにより、最低限必要な道路機能を維持できるから。						
算式						単位	%
目標値 (公表)	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	30	計画	30	30	30	30	
		実績	30	24			
指標名	橋梁点検実施件数						
設定理由	橋梁を計画的に点検することにより、損傷の事前予測や劣化予測ができるから。						
算式						単位	件
目標値 (公表)	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	25	計画	50	72	19		
		実績	90	44			
指標名	地域協働道ぶしんクリーン事業実施件数						
設定理由	実施件数を維持することにより、官民協働での道路、河川の維持管理ができるから。						
算式						単位	件
目標値 (公表)	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	156	計画	160	160	260	260	
		実績	256	259			

◆目標の実現に向けた今後の取り組み

市内の社会資本は、必要な機能を維持しつつ、定期的な点検を行い、将来の維持・更新費用の抑制のため、長寿命化計画や修繕計画により事業を実施する。生活道路等は、評価による優先順位に基づき事業を行うとともに、評価内容の検討も行う。橋梁は、1サイクル目の点検が終了するため、点検結果を踏まえた橋梁長寿命化計画の見直しを行い、修繕計画等を策定する。空家対策は、無料相談会を開催し、空家所有者による適正な管理を促す。また、特定空家等に指定された空家所有者に対しては、除却や修繕等の指導を行う。

◆個別計画

橋梁長寿命化修繕計画／耐震改修促進計画／公営住宅等長寿命化変更計画

◆特記事項

事務事業名	456 土木総務費運営費	施策内順位
所 管	200110 建設部・建設課・管理係	—
事務事業名	147 土木総務費給与費	施策内順位
所 管	200110 建設部・建設課・管理係	—
事務事業名	319 道路台帳補正業務費	施策内順位
所 管	200110 建設部・建設課・管理係	11/13
事務事業名	3810 占用工事負担金事業	施策内順位
所 管	200110 建設部・建設課・管理係	9/13
事務事業名	442 住宅管理費運営費	施策内順位
所 管	200110 建設部・建設課・管理係	—
事務事業名	129 住宅耐震化事業	施策内順位
所 管	200110 建設部・建設課・管理係	12/13
事務事業名	6229 特定空家対策事業	施策内順位
所 管	200110 建設部・建設課・管理係	10/13
事務事業名	283 事務費運営費	施策内順位
所 管	200110 建設部・建設課・管理係	—
事務事業名	169 住宅新築資金等貸付事業債元金償還金	施策内順位
所 管	200110 建設部・建設課・管理係	—
事務事業名	338 住宅新築資金等貸付事業債利子償還金	施策内順位
所 管	200110 建設部・建設課・管理係	—
事務事業名	339 予備費	施策内順位
所 管	200110 建設部・建設課・管理係	—
事務事業名	72 市単道路等整備事業	施策内順位
所 管	200130 建設部・建設課・建設係	6/13
事務事業名	440 河川整備事業	施策内順位
所 管	200130 建設部・建設課・建設係	8/13
事務事業名	3813 交通安全通学路整備事業	施策内順位
所 管	200130 建設部・建設課・建設係	7/13
事務事業名	3812 社会資本整備総合交付金事業（橋梁）	施策内順位
所 管	200130 建設部・建設課・建設係	1/13

事務事業名	4768 社会資本整備総合交付金事業（舗装改良）	施策内順位 2/13
所管	200130 建設部・建設課・建設係	
事務事業名	6231 社会資本整備総合交付金事業（交通安全）	施策内順位 3/13
所管	200130 建設部・建設課・建設係	
事務事業名	7915 社会資本整備総合交付金事業（トンネル）	施策内順位 —
所管	200130 建設部・建設課・建設係	
事務事業名	259 道路橋梁単独災害復旧事業	施策内順位 —
所管	200130 建設部・建設課・建設係	
事務事業名	260 災害復旧事業	施策内順位 —
所管	200130 建設部・建設課・建設係	
事務事業名	208 市道維持補修事業	施策内順位 5/13
所管	200190 建設部・建設課・維持係	
事務事業名	7715 市道除融雪事業	施策内順位 —
所管	200190 建設部・建設課・維持係	
事務事業名	3679 国土地籍調査事業	施策内順位 4/13
所管	200191 建設部・建設課・国土調査係	
事務事業名	150 都市公園維持管理事業	施策内順位 13/13
所管	200530 建設部・都市計画課・まち整備係	

基本計画（施策評価シート）

基本構想	05	【生活基盤整備】
政 策	主	01 安心して快適に暮らせるまち
	副	—
施 策	04	安全な水道水の安定供給と持続的な安定経営を進めます
所 管	609100	環境水道部・上水道課
関 連	—	—
関 連	—	—
関 連	—	—
関 連	—	—
関 連	—	—

◆現状と課題

小諸市の水道水源は、湧水と深井戸のみで水量・水質共に安定した供給を行っているが、高度成長期以降に整備された施設が法定耐用年数を迎え始め、水道施設の老朽化が進んでおり、また人口減少問題により水道料金収入の減少も見込まれている。このため、施設の更新とその財源確保が大きな課題となっている。また、技術の継承、スキルの向上など人材育成も課題となっている。このような水道事業の実態などを使用者へ適切に情報提供していくことも重要な課題である。

◆方 針

目 的	優先順位
平成28年度に策定した上水道事業基本計画に基づく、実施計画により事業推進を図り、将来も持続可能な水道事業の基盤を構築する。また、利用者に適切な情報提供を行い水道事業の理解度を深める。	—

◆目 標

・目標の計画と達成状況

計 画
①上水道事業基本計画に基づいた施設整備、経営改革により、将来も持続可能な水道事業の基盤を構築するとともに、計画の進捗状況のチェック、業務状況の確認を行い、効率的な計画実施が図れる状態。 ②適切な情報提供により、水道利用者の水道事業に対する理解度が深まる状態。
設定理由
①②上水道事業基本計画は、水道事業全般を見直し、配水計画や水利用計画、経営戦略を含めた総合的な計画であり、この基本計画の確実な実行が水道事業の課題克服に直結するため。

◆実績

平成29年度 実績	評価点	-
上水道事業基本計画及び水道ビジョンに基づいた実施計画書（平成30年度～平成35年度）を策定した。 上水道市民懇談会を開催し、使用者の意見を聞くことができた。		

◆成果指標（アウトカム）

・目標値の計画と達成状況

指標名	総収支比率（総収益／総費用）×100				
設定理由	総収益と総支出の総体的バランスを見ることで、経営状況を判定できるため。				
算式					
				単位	%
	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標値 (公表)	114.2	計 画	113.8	112.1	110
		実 績	113.5	120.7	106
指標名	管路更新率（その年度に更新された管路延長／管路総延長）×100				
設定理由	安定経営を行う中で、管路施設への投資がどのくらいできたか判定できるため。				
算式					
				単位	%
	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標値 (公表)	0.05	計 画	0.18	0.3	0.7
		実 績	0.1	0.1	1
指標名					
設定理由					
算式					
				単位	%
	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標値		計 画			
		実 績			

◆目標の実現に向けた今後の取り組み

- ①上水道事業基本計画及び水道ビジョンに基づき策定した実施計画書（平成30年度～平成35年度）により事業推進を図り、将来も持続可能な水道事業の基盤を構築していく。
- ②運営体制については、民間の運営能力を活用し、公民連携による公民共同企業体を設立するとともに人材育成を図る。

◆個別計画

環境基本計画／地域防災計画／小諸市上水道事業基本計画／小諸市水道ビジョン2017

◆特記事項

--

事務事業名	6011 小諸市水道事業	施策内順位
所管	609103 環境水道部・上水道課・経営改革係	1/1

基本計画（施策評価シート）

基本構想	05	【生活基盤整備】
政 策	主	01 安心して快適に暮らせるまち
	副	—
施 策	05	安全で安心な暮らしを実現する体制を充実させます
所 管	010700	総務部・総務課
関 連	600300	環境水道部・生活環境課
関 連	550100	消防課・消防課
関 連	—	—
関 連	—	—
関 連	—	—

◆現状と課題

共助のための「自主防災組織」について、未だ組織化できていない行政区があり、また、組織化されていても自主防災組織が主導して防災訓練を実施している区は半数以下である。異常気象による局地的な集中豪雨や大型台風の発生・上陸、大規模地震、浅間山の火山活動など、いざ有事の際に、被害を最小限にとどめる「減災」の取組強化が必要である。なお、第9次基本計画での取り組みにより、火災件数は減少傾向にあるが、住宅用火災報知器の設置率の低さが課題となっている。また、消防庁舎の老朽化と耐震性が不十分なため早急な対応が課題となっている。

◆方 針

目 的	優先順位
地域全体で安全・安心なまちをつくるため、関係機関の連携強化と住民意識の高揚を図るとともに、老朽化した消防庁舎を再構築し、「災害に強いまちづくり」を進める。	—

◆目 標

・目標の計画と達成状況

計 画
①市及び行政区で、それぞれの役割に応じた防災・防犯体制が構築され、全ての地域で様々な手段により防災行政情報を入手できる状態。 ②市民が避難方法や避難場所等を熟知している状態。 ③防災、防犯意識が高まっている状態。 ④交通事故発生件数が減少し、かつ、交通事故死亡者がゼロになり、安全で安心して暮らせる状態。
設定理由
①地域の防災力の向上を図ること及び市等からの情報発信の手段を複数確保することで、市民への情報伝達力の向上が図れるから。 ②避難方法や避難場所等を熟知していれば、有事の際にスムーズに避難できるから。 ③防災・防犯意識が高まれば、地域において主体的な役割を担ってもらえるようになるから。 ④交通事故、特に死者が出るような重大事故を減少させられれば、安全で安心して暮らせるようになるから。

◆実績

平成29年度 実績						評価点	—
①市の総合防災訓練に合わせ市役所災害対策本部立上げ訓練を行った。また、自主防災組織が組織化されていない区に対し、学習会等の支援を行ない、自主防災組織は60区（2区増）となった。 ②各区で自主防災組織が主体となつての防災訓練の実施を依頼し、49区（2区減）において防災訓練を実施した。 ③広報、ホームページ等で防災情報の周知等に努めた。 ④交通事故発生件数は増加し、事故死亡者が1名あり、死亡者ゼロは1021日でストップしたが、その後死亡事故は発生していない。							

◆成果指標（アウトカム）

・目標値の計画と達成状況

指標名	自主防災組織主導の防災訓練の実施率						単位	%
設定理由	災害発生直後は、自助共助が機能することにより被害を最小限に止めることができる。そのためには、自主防災組織が非常時において有効に機能することが必要で、毎年の防災訓練を実施することが有効であるため。							
算式							単位	%
目標値 (公表)	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	48	計画	51	55	60	65		
		実績	51	49				
指標名	住宅用火災警報器の設置率						単位	%
設定理由	消防法で設置が義務付けられている住宅用火災警報器の普及に努め、設置率が向上することにより、火災の際の被害軽減が図られるため。							
算式							単位	%
目標値 (公表)	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	76.8	計画	80	83	86	90		
		実績	76.9	76.9				
指標名							単位	
設定理由								
算式							単位	
目標値	計画策定時		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
		計画						
		実績						

◆目標の実現に向けた今後の取り組み

68区全てにおいて、自主防災組織の組織化及び継続した取り組みが行われることをめざし、組織化されていない区に対しては、自主防災組織の設立に向けた学習会の講師を職員が務めるなどの支援を行う。 また、毎年実施している「小諸市総合防災訓練」は、今までの様な大規模な「見せる訓練」から、各区の自主防災組織主導で、各区において、「より実効性のある訓練」となるよう側面からサポートする。

◆個別計画

地域防災計画／交通安全基本計画

◆特記事項

（空欄）

事務事業名	160 防犯事業	施策内順位
		4/10
所 管	010910 総務部・危機管理課・危機管理防災係	
事務事業名	13 セーフコミュニティ推進事業	施策内順位
		3/10
所 管	010910 総務部・危機管理課・危機管理防災係	
事務事業名	362 防災対策費運営費	施策内順位
		1/10
所 管	010910 総務部・危機管理課・危機管理防災係	
事務事業名	437 防災情報基盤整備・運用事業	施策内順位
		2/10
所 管	010910 総務部・危機管理課・危機管理防災係	
事務事業名	6 消費者行政事業	施策内順位
		8/10
所 管	103030 民生部・市民課・市民係	
事務事業名	225 佐久広域連合負担金	施策内順位
		9/10
所 管	550105 消防課・消防課・消防課	
事務事業名	200 非常備消防費運営費	施策内順位
		5/10
所 管	550105 消防課・消防課・消防課	
事務事業名	446 消防施設費運営費	施策内順位
		6/10
所 管	550105 消防課・消防課・消防課	
事務事業名	7864 消防庁舎整備事業	施策内順位
		—
所 管	550105 消防課・消防課・消防課	
事務事業名	433 交通安全対策事業	施策内順位
		7/10
所 管	600301 環境水道部・生活環境課・生活環境係	
事務事業名	243 県民交通災害共済事務	施策内順位
		10/10
所 管	600301 環境水道部・生活環境課・生活環境係	